

JOMF 派遣医師便り (2013. 4)

◆シンガポール◆

マラリア

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールは 1982 年から、東南アジアで唯一のマラリアフリーの国として世界保健機構から認められています。しかしながら、輸入例の報告が続いております。2010 年から 12 年までの国内報告例は 479 例ありましたが、99.3%が輸入例でした。

こうした中 2012 年 12 月、4 人の集団感染例が報告されました。4 人とも熱帯熱マラリアで、詳細な検討の結果、4 人とも同じ株であることがわかりました。

このうちの 2 人は他の 15 人とともに、近隣国の島(名称は公表されていません)にサイクリングツアーに行き、12 月 9 日ケーロン（海岸から少し離れた沖合いにあるプラットフォームで魚釣りができ、宿泊もできる施設）で一泊したとのことでした。

また別の 2 人は他の 5 人とともに 12 月 8 日、たまたま同じケーロンに宿泊し、その後、別の島にいき、12 月 10 日から 12 日まで宿泊したとのことでした。

4 人とも、マラリアの予防薬は服用しておらず、ケーロンに宿泊した際も蚊よけの対策は何もとっていなかったとのことでした。

これら 4 人はシンガポールに戻った後、12 月 19 日から 23 日までの間に発症しました。いずれも適切な治療で回復しました。2 つのグループの他のメンバーには発症者は現時点（4 月 5 日）まではいないとのことでした。

さらにこの島へ旅行した他の 3 人のシンガポール人も、時期は異なりますが、熱帯熱マラリアを発症していたことが報告されています。シンガポール政府はこの国の政府にこの情報を提供しています。

シンガポールは周囲をマラリアの流行国で囲まれています。世界保健機構の 2011 年の統計によれば、マレーシアでは年約 4000 例、インドネシアでは 20 万人以上（死者 500

名) の発生があります。周辺国の熱帯熱マラリアの割合は、マレーシア 30%、インドネシア 55%、カンボジア 63%、タイ 40%と高率です。

また、タイ-ミャンマー国境付近、タイ-カンボジア国境付近、ベトナム南部はメフロキン耐性マラリアが 50% 以上となっています。メコンデルタでは、中国でチンハオスとして 2000 年前から知られ最後の切り札としても使われているアルテミスニンにも耐性株も増加してきており、大きな問題になっています。

周辺国に行かれる際は、最新の現地の情報を得て、必要に応じて適切な対応策をするように心がけましょう。